港空研プログラムライブラリ　インストール規定

２０１１．０５

独立行政法人　港湾空港技術研究所

目　次

１．はじめに 1
２．対応ＯＳについて 1
３．起動したプログラムに関する名称及びバージョン情報表示の統一について 1
４．インストール時のインストーラ動作に関する統一について 3
５．インストール後の状態に関する統一について 7
６．ｽﾀｰﾄﾒﾆｭｰとﾃﾞｽｸﾄｯﾌﾟのフォルダ構成に関する統一について 9
７．ルートディレクトリに関する統一について 10
８．成果品 MO ディスクの構成に関する統一について 11
９．FORTRAN 言語について 12
１０．Microsoft Visual Basic Ver.6.0 言語について 12

１．はじめに

本規定はパソコンＯＳへの移行と各プログラムのインストールやバージョン管理を統一して、重複投資や利用者の不便を無くすために統一した考えでバージョン管理及びインストーラの作成を実施することについて記すものである。

なお、ここでは P025_波浪変形計算システム Ver2.2R6 を例に記すものとする。

２．対応ＯＳについて

港空研ライブラリで運用するプログラムは Microsoft Windows 上で動作するものとし、以下に示すＯＳ上での動作を保証するものでなければならない。これにより、プリ・ポスト部分での同一プログラムの再開発を防止する。

表－２－１　港空研ライブラリ対応ＯＳ一覧

No	ＯＳ	エディション
1	Microsoft Windows XP	Professional–
2	Microsoft Windows Vista	Business
3	Microsoft Windows 7	Professional

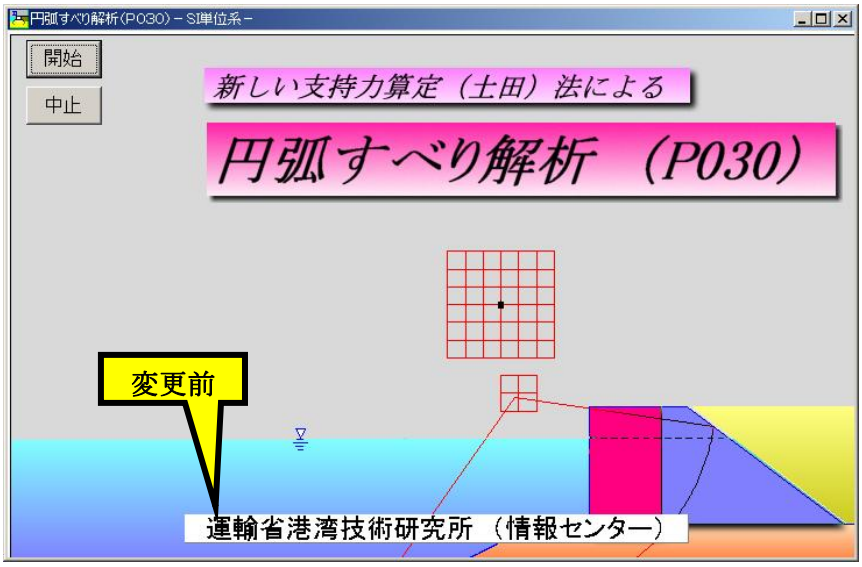
３．起動したプログラムに関する名称及びバージョン情報表示の統一について

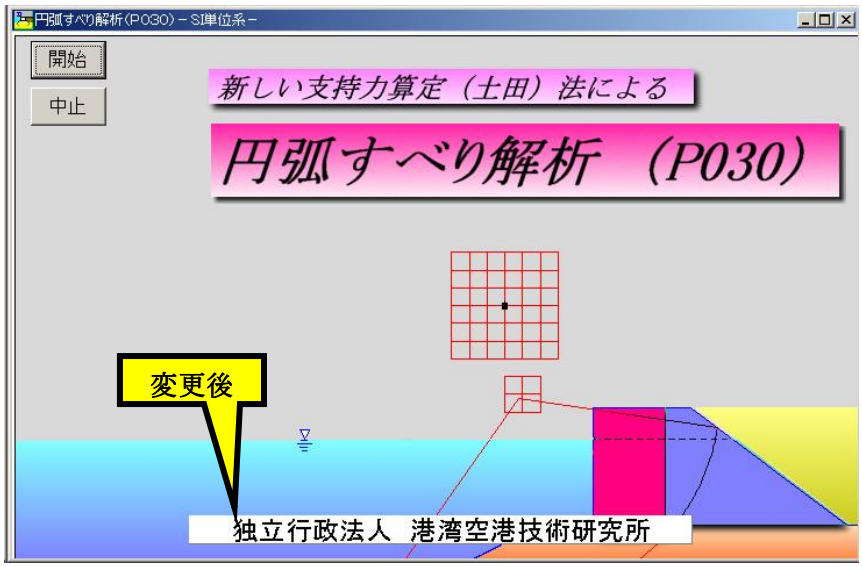
プログラムを起動した状態において、そのライブラリのバージョン及び作成年月日を明示しなければならない。

① メニューとして「ヘルプ」を設置し、その配下に「ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ情報」というメニューを表示する。

② バージョン情報には、ライブラリ名、プログラム名、バージョン、作成年月日を明記しなければならない。

③ プログラムを起動した時に表示するスプラッシュ画面には、「独立行政法人　港湾空港技術研究所」または「ＰＡＲＩ」の名称を明記しなければならない。なお、既に作成しているプログラムにおいて、旧港湾技術研究所の名称を表示している場合には、これを前述した名称に変更しなければならない。





４．インストール時のインストーラ動作に関する統一について

Microsoft 社では、今後プログラムのインストーラは Windows Installer に準拠している仕様でなければ、インストールできないようになると提言している。このため、Microsoft 社インストーラ仕様の **Windows Installer バージョン 4.5 以上**で対応する。

なお他のインストーラを使用する場合は、Microsoft 社インストーラ仕様を全て満たしていなければならない。

① インストーラの作成と保存フォルダについて

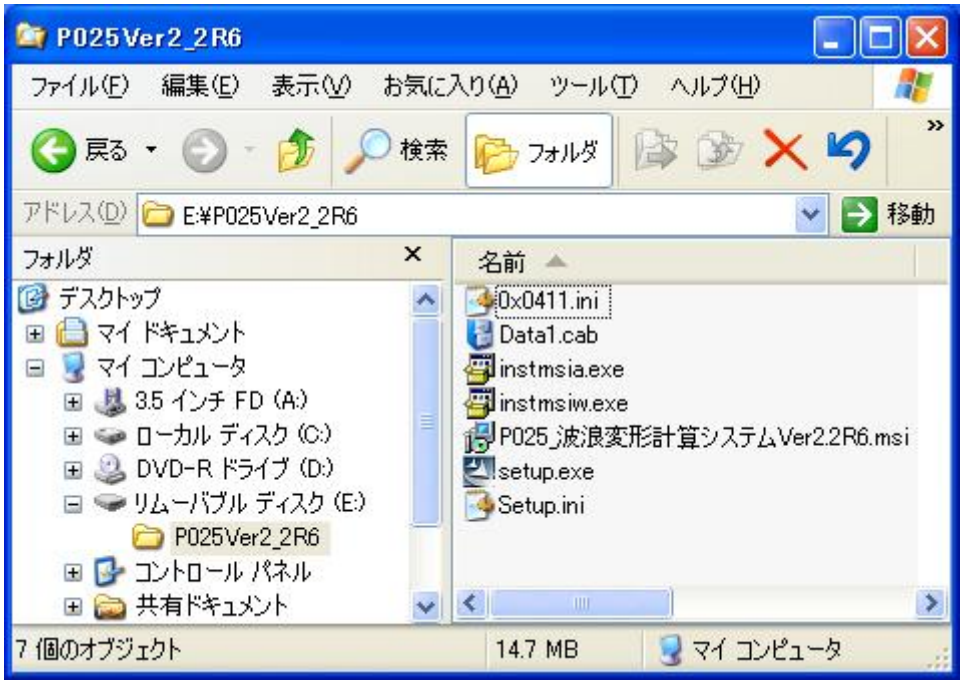
インストーラは、**InstallShield 2010 以上**を用いた **MSI プロジェクト**で作成するものとし、ビルド後のインストーラは、**ライブラリ名とバージョン名が判別**できるようにフォルダ名を作成するものとする。

ａ．フォルダ名はバージョンまで記述し、半角「.」は使わず、半角「_ 」を使用する。

ｂ．フォルダ名は半角英数字と半角特殊文字で作成する。

これは、ＣＤ等作成時にエラーとなるソフトがあるためである。フォルダにバージョンを記すことにより配布時および管理時の管理に利便性がある。

以下に P025 におけるインストーラの媒体を示す。



② インストールの動作フローと画面構成について

インストールは、セットアップモジュールを起動しプログラムのインストールを行うものとし、本規定で定める範囲は以下の５箇所とする。

ａ．インストール先のディレクトリを表示すること。

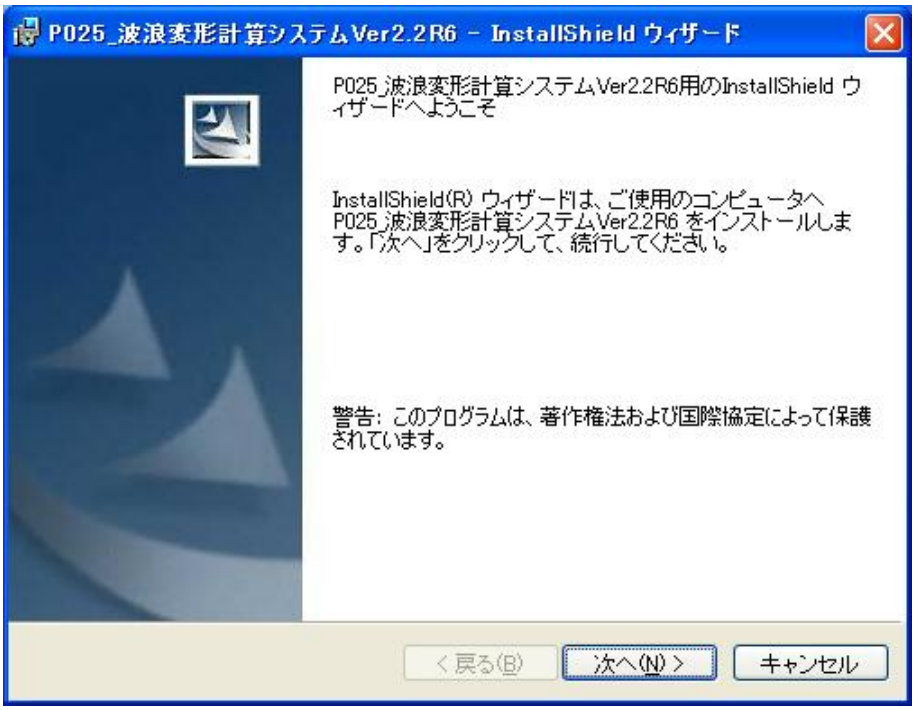
ｂ．インストール先のディレクトリは変更できること。

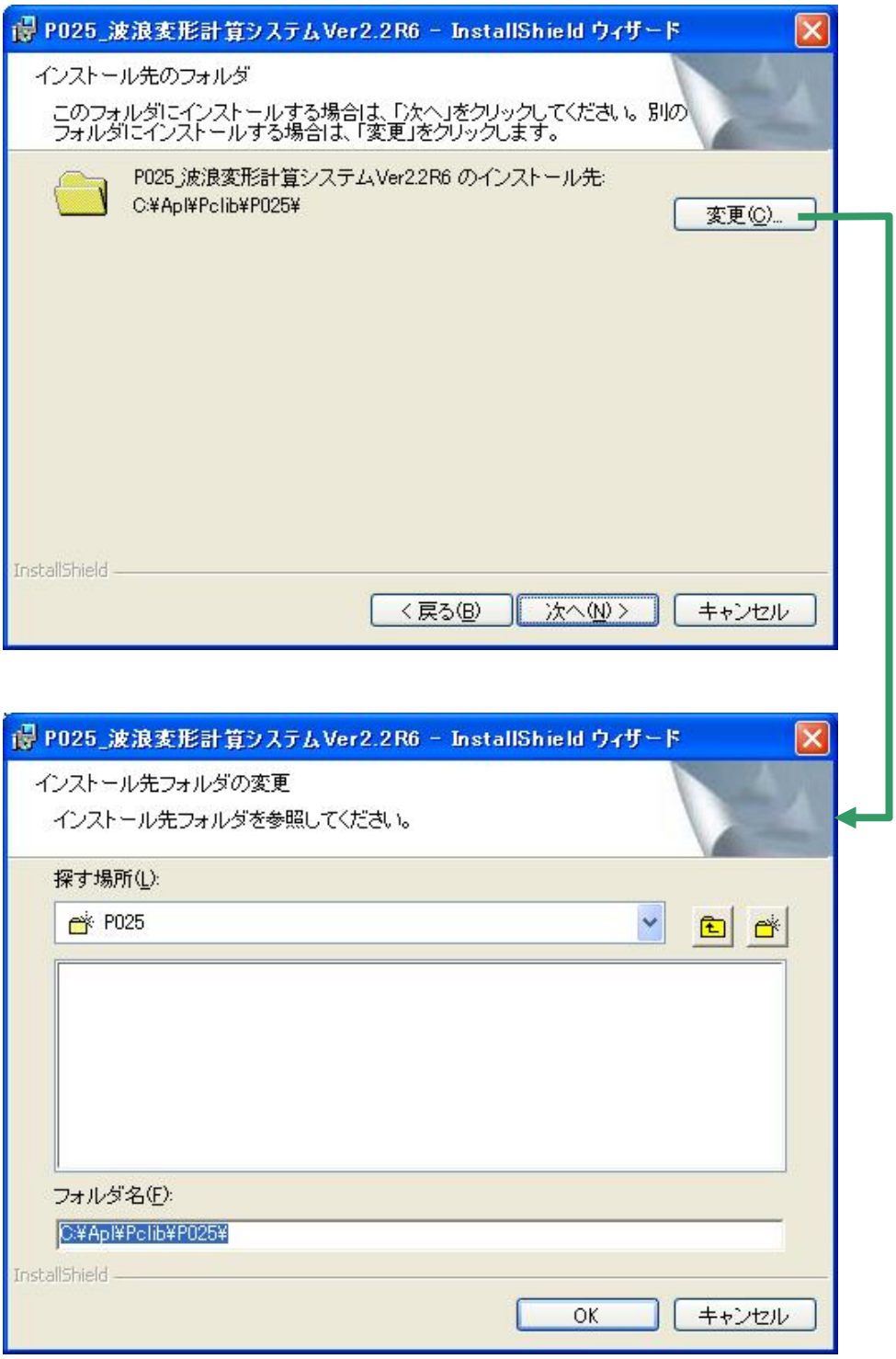
ｃ．インストール先のプログラムフォルダを表示すること。

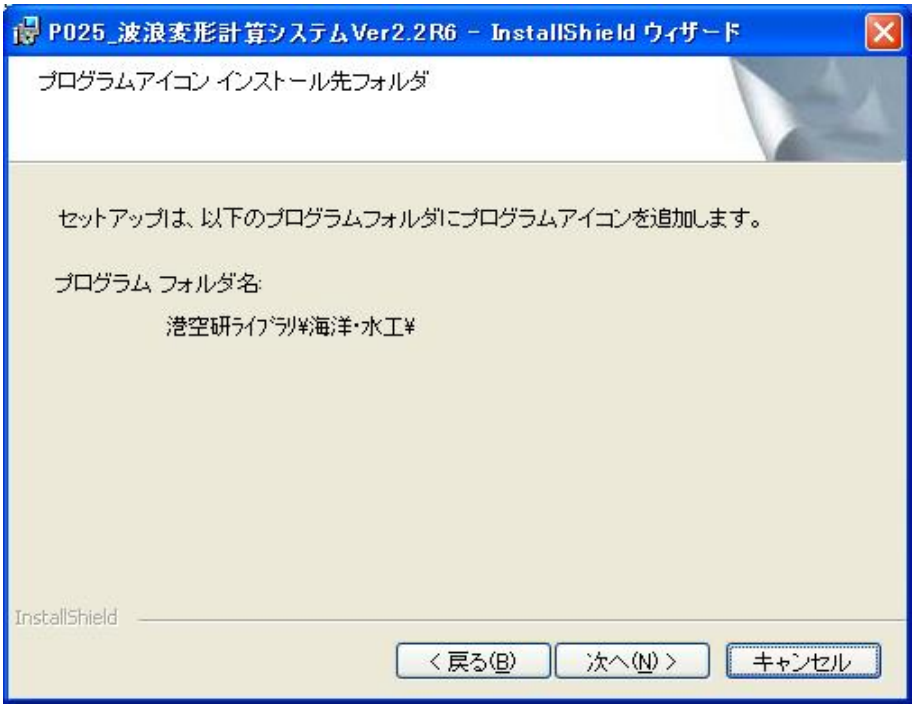
ｄ．インストール先のプログラムフォルダは変更しないこと。

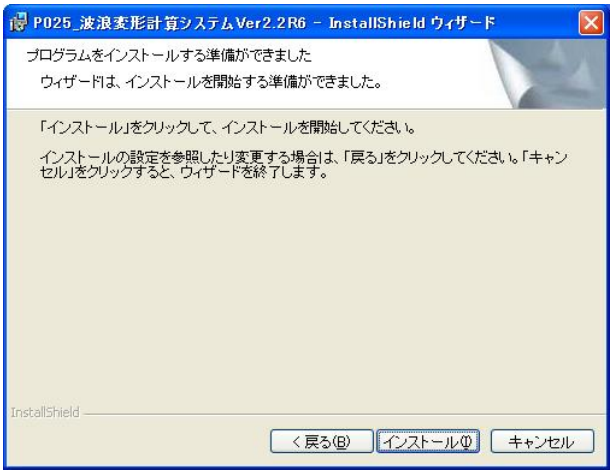
ｅ．他のＰＧがインストールされている場合は、アンインストール時にデスクトップ上のプログラムフォルダは削除しないこと。

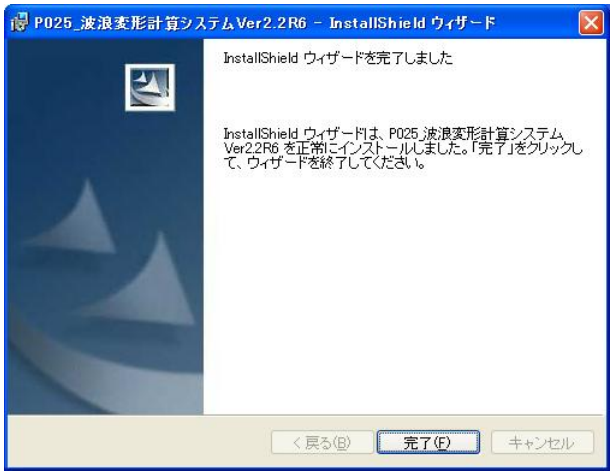
以下に P025 におけるインストーラの画面フローを示す。




P025_波浪変形計算システムVer2.2R6 - InstallShield ウィザード
インストール先のフォルダ
このフォルダにインストールする場合は、「次へ」をクリックしてください。別のフォルダにインストールする場合は、「変更」をクリックします。
P025_波浪変形計算システムVer2.2R6 のインストール先:
C:¥Apl¥Pclib¥P025¥
変更(C)...
InstallShield
< 戻る(B)
次へ(N) >
キャンセル
P025_波浪変形計算システムVer2.2R6 - InstallShield ウィザード
インストール先フォルダの変更
インストール先フォルダを参照してください。
探す場所(L):
P025
フォルダ名(F):
C:¥Apl¥Pclib¥P025¥
InstallShield
OK
キャンセル


P025_波浪変形計算システムVer2.2R6 - InstallShield ウィザード
プログラムアイコン インストール先フォルダ
セットアップは、以下のプログラムフォルダにプログラムアイコンを追加します。
プログラム フォルダ名:
港空研ライブラリ¥海洋・水工¥
InstallShield
< 戻る(B)
次へ(N) >
キャンセル


P025_波浪変形計算システムVer2.2R6 - InstallShield ウィザード
プログラムをインストールする準備ができました
ウィザードは、インストールを開始する準備ができました。
「インストール」をクリックして、インストールを開始してください。
インストールの設定を参照したり変更する場合は、「戻る」をクリックしてください。「キャンセル」をクリックすると、ウィザードを終了します。
InstallShield
< 戻る(B)
インストール(I)
キャンセル


P025_波浪変形計算システムVer2.2R6 - InstallShield ウィザード
InstallShield ウィザードを完了しました
InstallShield ウィザードは、P025_波浪変形計算システム Ver2.2R6 を正常にインストールしました。「完了」をクリックして、ウィザードを終了してください。
< 戻る(B)
完了(F)
キャンセル

５．インストール後の状態に関する統一について

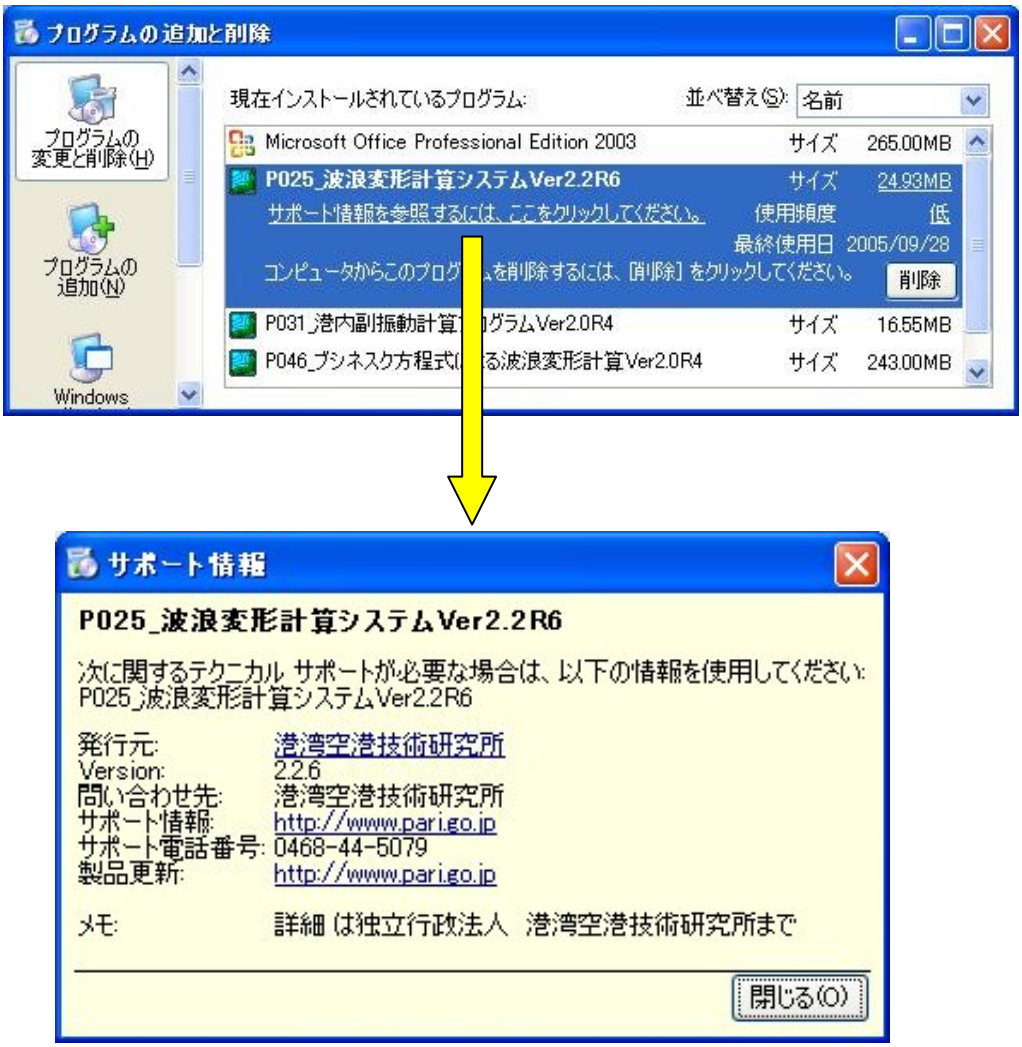
インストール後の表示方法を次の方法で統一し、以下に示すａ～ｃの３箇所について明示するよう規定する。

① 文字の取り扱いは全角日本語と半角英数字と半角特殊文字「._」から構成する。

② ヘルプ以外は、**プログラムやデータベースの固有名を半角英数大文字と半角「_」を先頭に付け、プログラム名等を全角日本語で、バージョン名等を半角英数字と半角特殊文字「.」で構成**する。

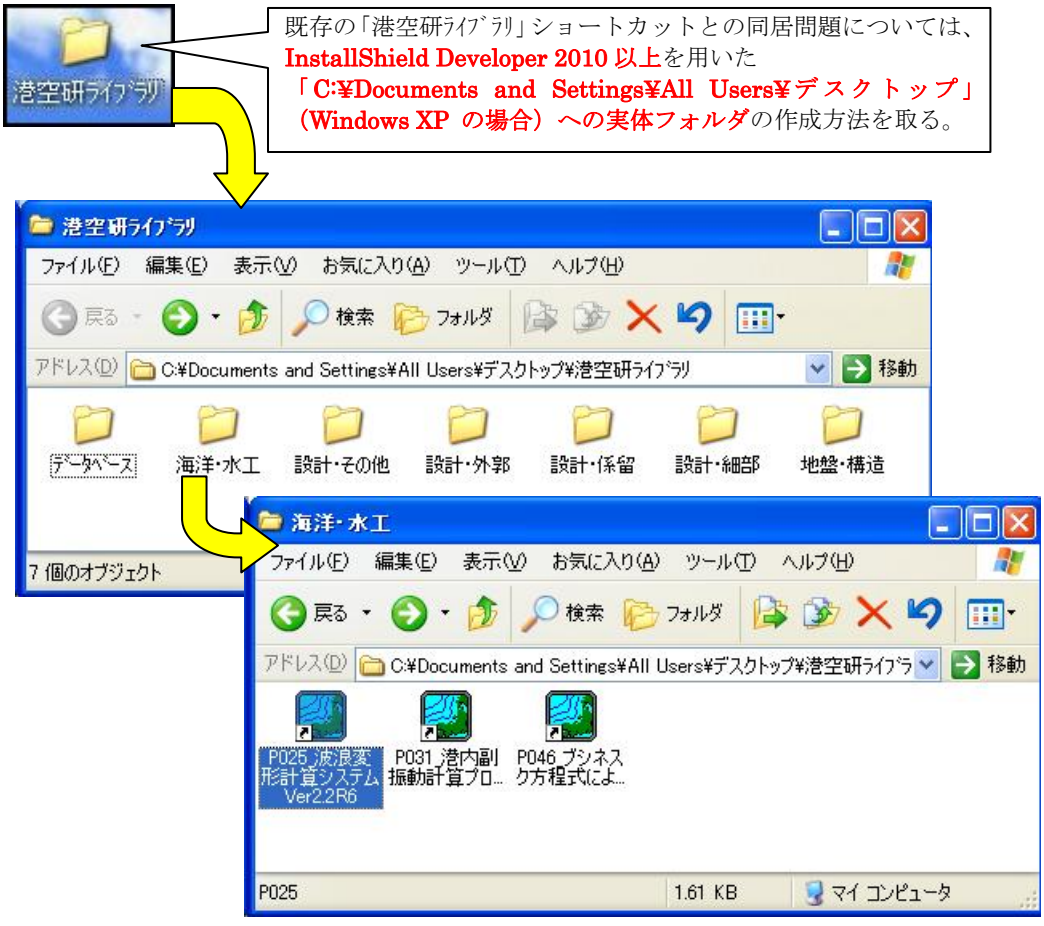
例　**P025_波浪変形計算システム Ver2.2R6**

ａ．アプリケーションの追加と削除での表示



b．スタートメニューのプログラムでの表示

c．デスクトップでの表示



６．ｽﾀｰﾄﾒﾆｭｰとﾃﾞｽｸﾄｯﾌﾟのフォルダ構成に関する統一について

スタートメニューとデスクトップに表示されるプログラムのショートカットは、以下の方法に従い作成されなければならない。

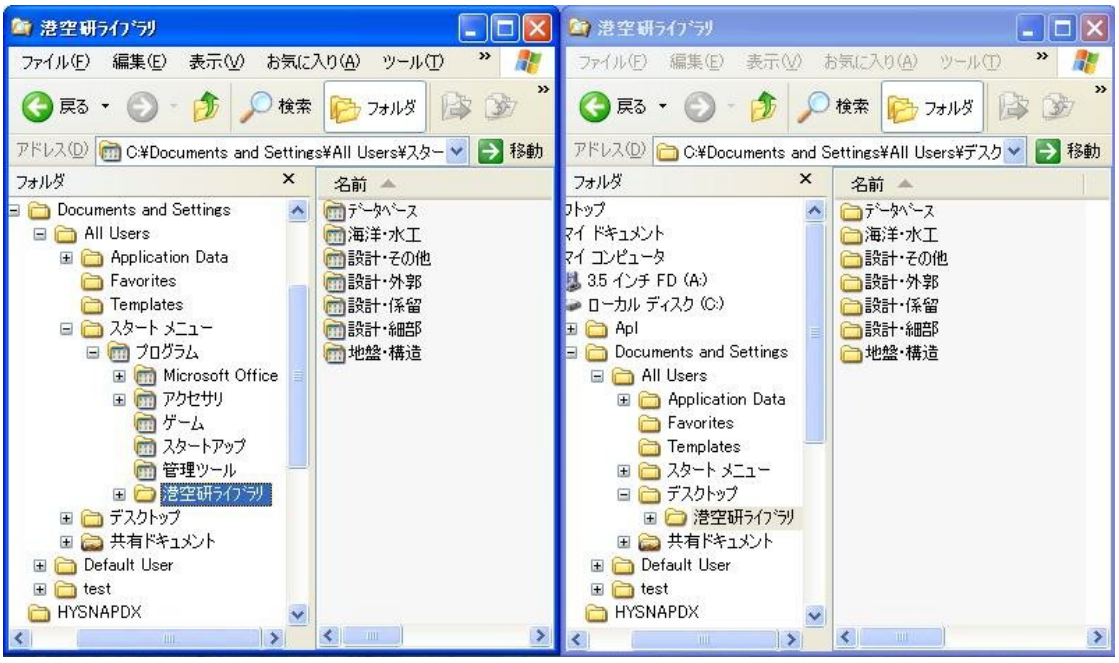
① フォルダが無い場合は作成しデスクトップ画面に表示する。
② フォルダが有る場合は追加または上書きする。
③ フォルダが有り、フォルダ名が利用者により変更されている場合も、追加または上書きする。
④ Windows XP の場合は Documents and Settings¥All Users¥スタートメニュー¥プログラムにフォルダを作成し、ショートカットを配置する。
Windows Vista／７の場合は
ProgramData¥Microsoft¥Windows¥Start Menu¥Programs
にフォルダを作成し、ショートカットを配置する。
⑤ Windows XP の場合は Documents and Settings¥All Users¥デスクトップにフォルダを作成し、ショートカットを配置する。
Windows Vista／7 の場合は Users¥Public¥Desktop にフォルダを作成し、ショートカットを配置する。

フォルダ構成

港空研ﾗｲﾌﾞﾗﾘ（**漢字半角カタカナ**）⟶ 海洋・水工（全角文字＋半角「・」）

ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ（半角文字）

下図のような構成とする。



7．ルートディレクトリに関する統一について

インストールされたプログラム格納フォルダの構成は次の通りとする。

① プログラムは **Apl** フォルダとする。
② 計算プログラムは Apl フォルダの配下に **Pclib** フォルダを置く。
③ データベース支援管理等プログラムは Apl フォルダの配下に **Aplib** フォルダを置く。

各プログラムはこれら何れかのフォルダの配下に個々のフォルダ名で格納される。格納される個々のフォルダはバージョンアップ等が有っても変更しないものとする。

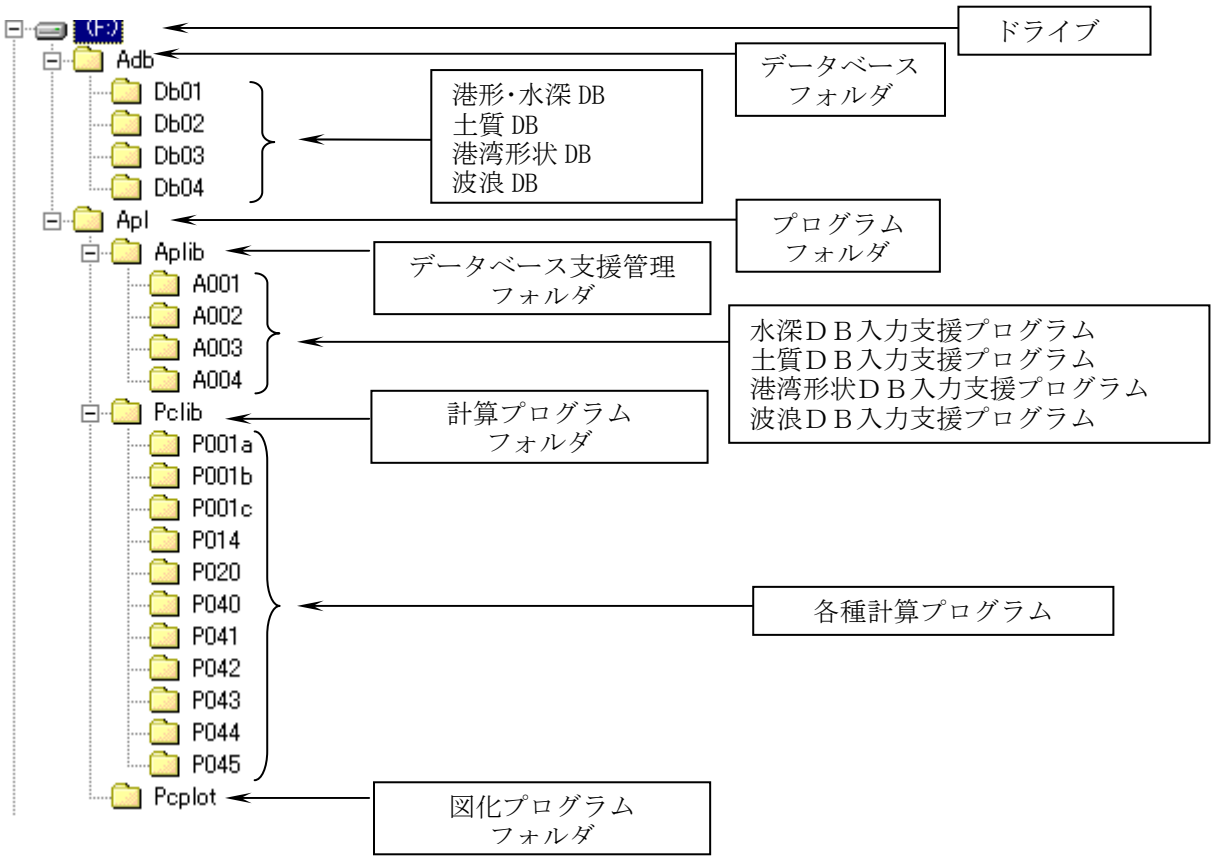
例　Apl ⟶ Pclib ⟶ P025（P025 は個々のフォルダであり変更しない）

・データベースは **Adb** フォルダとする。

各データベースは Adb フォルダの配下に個々のフォルダ名で格納される。格納される個々のフォルダはデータ変更等が有っても変更しないものとする。

例　Adb ⟶ Db01（Db01 は個々のフォルダであり変更しない）

下図のような構成とする。



８．成果品 MO ディスクの構成に関する統一について

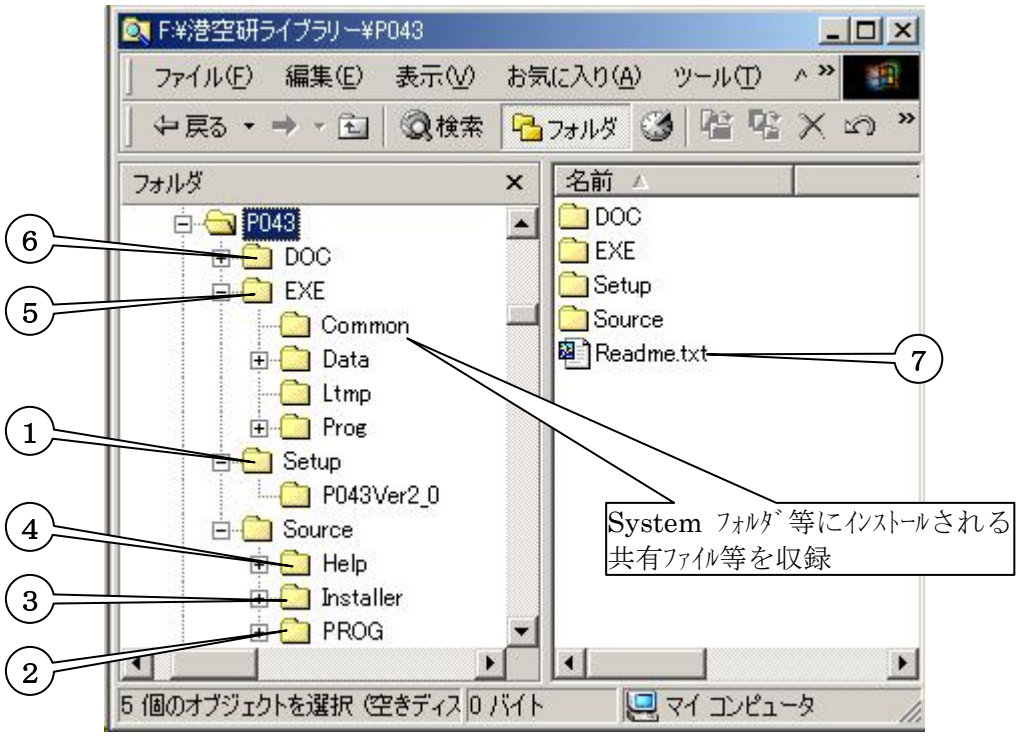
成果品として納品する MO ディスクには以下に示すものに該当するファイルを分かりやすいフォルダ構成にて収録することとする。

また、本 MO ディスクを用いることで、**『プログラムの改良』、『インストーラーの再構築』**、および**『ヘルプファイルの更新』**等が行えるように構成しなければならない。

1）収録必須ファイル

① インストーラー
② プログラムソース（ソルバー・プリポスト）
③ インストーラーソース
④ オンラインヘルプソース
⑤ インストール後のフォルダ構成に準じたランタイムファイル
⑥ 取扱説明書、操作マニュアル、テストラン結果等のドキュメント
⑦ MO の構成および内容を記載した Readme ファイル、②のソルバー・⑥はペーパでも収録する。

2）フォルダ構成例



なお、インストーラーソース（③）にて参照するインストールファイルは、インストーラー再構築の効率化を考慮し、支障の無い限り、**EXE フォルダに置かれたファイル（⑤）を参照**するように構築することとする。

９．FORTRAN 言語について

開発に使用した FORTRAN 開発環境は、OS やプロセッサー出現によりに製造が中止されており、今後のバージョンアップは期待できない。現存する FORTRAN 開発環境の中では Visual Fortran6.6 以上が実行速度ですぐれているのでこれに移植する。やむをえずその他の FORTRAN 開発環境を利用する場合には、Pentium 4 以降のプロセッサーおよび最新の Windows OS に対応している事を必要条件とし、担当職員と協議の上決定する。変更箇所は主に演算部と入出力部分の一部分である。これにより、ソルバ部分での同一プログラムの再開発を防止する。

１０．Microsoft Visual Basic Ver.6.0 言語について

Visual Basic 6 の Microsoft によるサポートは、2008/4/8 をもって終了した。ただし、**Visual Basic チームは、Visual Basic 6.0 アプリケーションが Windows Vista と、Windows Server 2008 および Windows 7 でも "そのまま" 動作する互換性を提供する**ことを表明している。

Visual Basic 6 で開発したプログラムが、Windows Vista 以降の OS で Visual Basic 6 に起因して正常に動作しない場合は、他言語への移植を行う必要がある。今後、新規開発では Visual Basic 6 は使用しないこととする。Visual Basic .NET、Visual Basic .NET2003、Visual Basic 2005 、Visual Basic 2008、Visual Basic 2010 を使用すること。